

IAUD Newsletter vol.10 第 8 号 (2017 年 11 月号)

1. 余暇の UDPJ メガネで見る字幕ガイド鑑賞会開催報告..... 1
2. 「ジャパンシルバー-EXPO2017」UD ステージ開催のご案内..... 5
3. 「IAUD アワード 2017」特別推薦制度のご案内..... 6
4. IAUD 11 月の予定..... 7

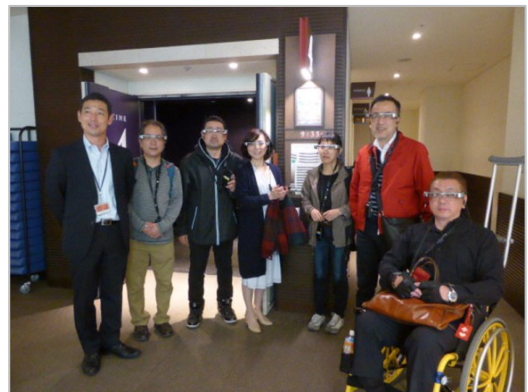
スマートグラスで一緒に映画を楽しめる

活動報告: 余暇の UDPJ 「メガネで見る字幕ガイド」映画鑑賞会開催

「テレビ CM にも字幕を」をテーマに活動している余暇の UD プロジェクトは、10 月 6 日 (金) に映画館「CINECITTA' (以下チネチッタ)」(神奈川・川崎) で、スマートグラス(字幕表示させるメガネ型端末)を使用した映画鑑賞会、及び同館関係者との意見交換会を開催しました。

当日は同 PJ メンバー 5 人(うち聴覚障害者 3 人、車いす使用者 1 人)と手話通訳者 2 人のほか、東日本大震災のドキュメンタリーを制作した映画監督の今村彩子氏(聴覚障害者)、興行通信社の金沢亮氏の総勢 9 人が参加しました。

今号の Newsletter では、スマートグラスの使用感や意見交換会の模様を同 PJ メンバーの土屋亮介氏が報告します。



スマートグラスを装着した参加者
(左は(株)チッタエンタテインメントの細川氏)

チネチッタのユニヴァーサルサービス

チネチッタでは 2016 年 9 月より、邦画への日本語字幕上映を数多く公開しているほか、音がかたまりになって伝わってくる特殊音響システム「LIVE ZOUND※¹」の導入、日本語字幕と LIVE ZOUND の組み合わせ、視覚障害者には音声ガイド「UDCast※²」と iPod touch の無料レンタルを開始するなど、多様な人が楽しめる仕掛けづくりを積極的に行っています。

※¹「LIVE ZOUND」: 映画音響革命と名付けられた最新鋭のハイエンド音響装置。音の職人が映画一作、一作を、最適な音でその魅力を最大限に引き出している。

全身を包む弩級の重低音から雪の舞音も逃さない広音域の心地よい快感が、映画の臨場感をリアルに演出。空気を震わせるその装置は、聴覚障害者にも感じられると評判が高い。

詳細はこちらのサイトをご覧ください。

<http://cinecitta.co.jp/livezound/>



イタリアの街を模したチネチッタ周辺

※²「UDCast」: 映画・映像・放送等の音声をスマートフォン等の携帯端末のマイクが拾うことで、その端末を通じて、字幕や手話の表示、音声ガイドの再生等を行うことのできるアプリケーション。UDCast は Palabra(株)、音響通信技術はエヴィクサー(株)による。

スマートグラス貸し出しトライアルで字幕鑑賞

今回使用したスマートグラスは、セイコーエプソン製 MOVERIO BT-350(専用カスタム品)で、字幕データが記録されたアンドロイドが搭載されています。

トライアルという位置づけで、2017 年 9 月から 10 月までの 2 か月間、UD に積極的に取り組んでいる国内 4 か所の映画館でこのスマートグラスの貸し出しを実施していました。(チネチッタの他に立川・シネマシティ、名古屋・ミッドランドスクエア シネマ、大阪ステーションシティシネマで実施)

対応作品は、「三度目の殺人」「パーフェクト・レボリューション」(一部映画館のみ)「ナミヤ雑貨店の奇蹟」の 3 本で、今回は邦画「ナミヤ雑貨店の奇蹟」を鑑賞しました。

下左の写真のように、スマートグラスは首から下げて使用します。この端末にはマイクが接続されており、先述した UDCast を通して映画館の音声を拾い、日本語字幕データと同期させる仕組みになっています。頻繁に同期を行っているため、映画の途中から見ても音声と字幕がずれることはないということです。

このシステムは、MASC(NPO 法人 メディア・アクセス・サポートセンター)が長年映画のバリアフリーに取り組んできた中で開発されたものです。

MASC 事務局長の川野浩二氏は、スマートグラスによる字幕表示の可能性を追求した第一人者でもあります。

今回のスマートグラス貸し出しトライアルも、MASC のこれまでの取り組みの結果、全国の映画館が加入している全国興行生活衛生同業組合連合会が主催となり、「字幕表示用メガネ機器育成プロジェクト」として厚生労働省からの助成金対象となって実現しました。



スマートグラスを装着した様子
胸に見える端末に字幕データが記録されている



開始前にスマートグラスを通して見た字幕
中央文字(使用説明)はスマートグラスに表示されており、
本編が始まると自動的に映画字幕に切り替わる。

様々な視点での意見交換会

鑑賞後、(株)チッタエンタテインメントの美須アレックス代表取締役社長、同社事業推進室の細川泰輔氏、(株)チネチッタ営業部劇場運営課の野澤健人マネージャーをお迎えし、総勢 12 人で意見交換会を行いました。

聞こえないメンバーからは、「想像以上に見やすく、軽くて違和感がなかった」「これがあれば映画を好きな時に観られる。聞こえる子どもと観るとき字幕が吹き替えかで揉めたが、スマートグラスが普及すれば一緒に楽しめる」「聞こえない人は画面から目をそらす

と字幕や情報が入ってこない。でもスマートグラスならばよそ見をしても字幕が一緒についてくれる。聞こえる人と同じ条件になるのが素晴らしい」など、評価する声が多くありました。

一方、「メガネを使用している人にとってはわずらわしさを感じるので、改良されると良い」「(耳かけ式)補聴器を装用しているので、メガネがずれるのが気になる」「スマートグラスを使用するときに見やすい席を案内してほしい」「聴覚障害者へスムーズに対応できるスタッフがいると良い」など、要望やアイデアも多く出されました。

現場スタッフでもある野澤氏からの、「聞こえないお客様の感想をその場で聞きたいのですが、、、」という悩みに対しては、『『スマートグラスはどうでしたか』などを書いたホワイトボードを見せたり、質問を書いた用紙やアンケートを準備すればコミュニケーションのきっかけとなる』『手話が分からなくても、積極的に声をかけてもらえるとうれしい』などのアドバイスが次々と出てきました。

「スマートグラスを回収するスタッフが、『ありがとう』と手話で話してくれたのはうれしかった」という声に、美須社長も改めてコミュニケーションの大切さを強く印象づけられたようでした。

多様性のある人も一緒に楽しめる映画館に

チネチッタではこの一年間、「聴覚障害者や多様性のある人も一緒に楽しめる映画館でありたい」と、常に聴覚障害者や多様な人の声に耳を傾け、その声に対応できるよう、積極的に取り組んできました。

事業推進室の細川氏はその理由を、「皆さんと出会うことで身近な人に喜んでもらえる。これが一番うれしい」と述べました。

今後について美須社長は、「僕たちの大きな武器である LIVE ZOUND は聴覚障害者にも音を感じてもらえるので、スマートグラスとの合わせ技なども考えたい。スマートグラスの貸し出しは 10 月末で終了予定だが、継続して貸し出しできる仕組みと機会を作れるように頑張りたい」と語ってくれました。

今回の意見交換会への参加が叶わなかった MASC の川野氏からは、「全力で広報したものの思っていたより利用者は少なかった。ただ、対応作品も少なく、大ヒットしていたわけでもない。全体数からすると数字的には正しいのかも。映画はあくまで娯楽であり、お金を払ってまで観たいという作品が無いと、行く動機にもなりません。賛否はあるものの、アンケートには沢山の意見を頂いたので収穫は大きかったです。



映画鑑賞後の意見交換会



美須代表取締役社長

私も何度もスマートグラスを使って劇場で観ていますが、方向性は間違っていないと確信が持てました。字幕を出す方法はメガネ以外も考えているので、その開発もしていこうと思います」という力強いコメントを後日いただきました。

映画を楽しみたい気持ちはみな同じ

今回のスマートグラスによるトライアルを運営している MASC では、鑑賞後アンケートを実施しており、川野氏よりいくつかコメントを紹介していただきました。

その中から印象に残ったものを紹介します。

・子育てををする中で、聞こえる我が子と聞こえない母親である私が、一緒に映画館に入れず寂しい想いを何度もしてきました。きっと今も日本のどこかで、そんな現実寂しい想いをしている人がいることでしょう。そんな人を一人でも減らしたい。

どうか今回のトライアルを、期間限定で終わらせることなく継続し、発展させ、通常運用となる取り組みにつなげてほしい。

- ・スマートグラスを動かすことで、話者の位置へ字幕を合わせると臨場感があって面白かった。
- ・字幕付きの映画がもっと増えれば、映画館に出かける機会がもっと増えるでしょう。
- ・スマートグラスはまだ新しい開拓分野ですが、一般化したら料金も同じになってもよい。
- ・スマートグラスの発展に期待したい。邦画全てに字幕があり、自分の好きなときにいつでも見られる環境になればいい。

障害があってもなくても、映画を楽しみたいという気持ちはみな同じです。

それらを実現する方法として、スクリーンに直接焼き付ける字幕もありますが、スマートグラスのように持ち運びができる字幕も含め、楽しみの選択肢が広がることへの期待が大きいことが分かります。

「文化的な楽しみの UD」今後の課題

2016 年に日本で公開された邦画の数は 610 本、そのうち公開時に日本語字幕がついたのは 81 本、全体の 13%で、音声ガイドに至ってはわずか 2%です。

映画を含め、演劇や歌舞伎、日本の伝統芸能などの文化的な楽しみを障害のある人もない人も共に楽しめるかどうか、「文化的な楽しみの UD」はとても重要だと考えます。

そんな中で、「字幕がないために邦画が楽しめない」という現状を変えようとしている人たちが多くいます。

チネチッタでの映画鑑賞会及び意見交換会を通して、「少しでも映画体験の質を高めたい」と、見過ごされることが多いマイノリティの声に耳を傾ける感性と、現場の方に全幅の信頼を寄せる社長の存在が、チネチッタのユニヴァーサルサービスの原動力なのだと感じました。

スマートグラスを通して、明るい未来が見えるような鑑賞会と意見交換会となりました。

現在、UDCastによる音声ガイドは普及しつつある一方で、スマートグラスの普及は端末に予算がかかる為厳しい状況ですが、すべての映画館で貸し出しできる環境を整備していかなければなりません。

そのために、貸出用のスマートグラスのスポンサーを募集しています。興味のある方はぜひ余暇の UD プロジェクトに声をかけていただけると嬉しいです。

ユニヴァーサルサービスの向上へ

意見交換会後、チネチッタでは早速アンケートを用意し、スマートグラスを体験したお客さまの感想をその場で集める工夫をしています。

また、手話に興味をもつスタッフも増えているようで、スマートグラスを体験するために仙台から訪れた聴覚障害者は、「笑顔で手話やジェスチャーで対応してくれてとても嬉しかった。仙台からわざわざ来たかいがあった。チネチッタのファンになりました。また来たいです」と、喜びの報告をしてくれました。

一度目の来館は営業の力であるが、二度目、三度目の「また来たい！」という気持ちにつながるのは、ほかならぬ現場スタッフの力が大きい。チネチッタのスタッフの姿勢は、ユニヴァーサルサービスのお手本ともいえるでしょう。

障害のある当事者や生活者と、サービスを提供する側が対等に対話をする機会は、ニーズを明確にし、サービスの質を向上させるという建設的な場となります。

余暇の UD プロジェクトは、今後もこんな機会をつくりたいと考えています。

最後に、我々の心に響いた美須社長の一言を紹介します。「要望があるからやるのではなく、喜んでもらえるのが嬉しいから、楽しみながらやる。“美味しいポップコーンを提供するのと同じように”」。(了)



超高齢社会での UD の役割を考える

「ジャパンシルバー-EXPO 2017」UD ステージ開催

一般社団法人日本能率協会が 11 月 20 日(月)から 22 日(水)の 3 日間、東京ビックサイト(東京・有明)で開催する「ジャパンシルバー-EXPO 2017」において、IAUD はセミナー「ユニヴァーサルデザインステージ」を実施します。

今回が初開催となる「ジャパンシルバー-EXPO 2017」は、今年 42 回目となる日本最大級の医療・福祉分野の総合展示会「HOSPEX Japan」との同時開催です。

「健康・長寿の共同体を目指して」をテーマに、「健康・長寿」に関する全ての製品やサービスを一堂に集めた展示会やセミナーが行われ、医療・介護・福祉の関係者や自治体、学校など産官学のマッチングの場を提供します。

IAUD は「ジャパンシルバー-EXPO 2017」において、3 日間にわたりセミナー「ユニヴァーサルデザインステージ」を開催します。研究部会や委員会、会員企業がそれぞれ研究活動の成果や先進事例を紹介し、高齢化社会に向けた UD の理解と普及を行います。

参加は WEB 事前登録制・無料となっております。皆様のご来場をお待ちしております。

※「ジャパンシルバー-EXPO2017」の詳細はこちらのリンクをご覧ください。

<http://www.jma.or.jp/hospex/jsexpo/index.html>

※「ユニヴァーサルデザインステージ」の詳細及び参加登録はこちらのリンクをご覧ください。

http://www.jma.or.jp/hospex/seminar/js_universal_design.html

「ユニヴァーサルデザインステージ」プログラム		
11月20日(月)	テーマ	発表者
13:50～14:40	「衣・着る」 ～こころ ゆたかに～	衣の UD プロジェクト
15:00～15:50	多様な働き方の研究 ～シニアの充実した就労～	ワーキングスタイル プロジェクト
16:10～17:00	48 時間デザインマラソン紹介 障害者と街に出かけ、限られた時間で行う 「体験・発見・デザイン・検証」	ワークショップ委員会
11月21日(火)		
11:10～12:00	テレビ CM にも字幕を！ ～情報の UD とは～	余暇の UD プロジェクト
13:50～14:40	視覚的にわかりやすい緊急時コミュニケーションと誘導方法	手話用語 サブワーキンググループ
15:00～15:50	一般化するビジネス文書の UD	(株)モリサワ
11月22日(水)		
11:10～12:00	これからの日本の住宅についての研究	住空間プロジェクト
13:50～14:40	48 時間デザインマラソン紹介 障害者と街に出かけ、限られた時間で行う 「体験・発見・デザイン・検証」	ワークショップ委員会
15:00～15:50	一般化するビジネス文書の UD	(株)モリサワ



プレゼンテーションをドイツ・ミュンヘンで実施

IAUD アワード 2017 特別推薦制度のご案内

IAUD は、ドイツ・ミュンヘンで 2018 年 3 月 3 日(土)から 11 日(日)に開催される「ミュンヘン・クリエイティブ・ビジネス・ウィーク(MCBW)」において、「日本の UD 展」企画展示と「IAUD アワード 2017」の発表会及びプレゼンテーションを実施します。

つきましては、アワード応募のさらなる拡大発展のため、アワード特別推薦人による特別推薦制度を新たに策定しました。

アワード特別推薦人は「IAUD 会員」または「UD 検定資格保持者」で、この特別推薦制度を活用すれば、第 1 次審査を省略して第 2 次審査へと進むことができます。

締め切りは 11 月 17 日(金)です。皆さまの応募をお待ちしております。

※詳細はこちらのリンクをご覧ください。

<https://www.iaud.net/award/9283/>



「IAUD アワード 2016」プレゼンテーション
(名古屋国際会議場)

月	火	水	木	金	土	日
		1	2	3 文化の日	4	5
6	7	8	9 18:00～ メディアの UDPJ 移動空間 PJ UX ワークショップ @サイボーズ日本橋	10 13:00～ 手話用語 SWG @リコー本社	11	12
13	14 13:30～ 余暇の UDPJ @IAUD サロン	15 14:00～ 衣の UDPJ @IAUD サロン	16	17 IAUD アワード 2017 特別推薦制度締切	18	19
20 ジャパンシルバ ーEXPO 2017< 「UD ステージ」 @東京ビックサイト	21	22	23 勤労感謝の日	24 9:30～ 住空間 PJ <—————> 新空間見学 @メムメドウズ 13:30～ 標準化研究 WG @IAUD サロン	25	26
27	28	29	30			

次号は 2017 年 12 月発行予定

特集:住空間 PJ 住宅学生コンペ開催報告 他

IAUD 情報交流センター(IAUD サロン):

〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-25-9 トヨタ八丁堀ビル 4 階

電話:03-5541-5846 FAX:03-5541-5847 e-mail:info@iaud.net